

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	暮らしやすい場所作りや、生きがいのある生活作りを目的とした中での地域とのかかわりを目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝 朝礼時に唱和し、申し送りや会議等で理念の実践に沿った介護の取り組みを共有化している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時に理念及び運営方針をご説明。桜の里内の目に付く場所に掲示し、来所された方々にも見ていただけるようにし説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	表を通る方々とは挨拶や雑談などでいつでも遊びに来ていただけるよう声掛けをし、表に自販機を置き入りやすいよう工夫している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れ、シルバー人材センターの活用とともに、近所の植樹祭等への参加を行っている。		地域の草取りや空き缶集めに参加予定

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社会福祉協議会・地域包括主催の在宅高齢者サービス担当者会議のメンバーとなり、在宅高齢者への支援について意見の提案等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を全体会議、チーフ会議、家族会、運営推進会議のすべてで話し合い、改善に取り組んでいける体制を作っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行事・家族会・勉強会・避難訓練・外部評価の結果等あらゆる事を報告し、そこで出た意見はすべての会議に反映させサービスの向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者サービス担当者会議や居宅介護支援事業所連絡会への参加により比較的身近な協力関係を作っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各勉強会へ参加し、それを職員との勉強会で発表・説明し、必要なご家族への個別の説明や相談に応じている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時の身体チェック及び日常の様子観察のほか全体会議等での勉強会を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明には十分な時間をかけ、理解や納得が得られるよう心がけている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の方にも家族会や運営推進会議に参加していただき、意見を言える場を設けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ケアプランの見直し時、日常の面会時の報告のほか、電話等で頻繁に家族とは連絡を取る体制にある。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一度の全体会議及びスタッフ会議においてご家族のご要望を取り上げる体制にある。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>チーフ等に相談された意見は管理者へ報告され、チーフ会議で対応策を検討。また、日頃から気軽に自分の意見を言える場や、関係を作るようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者、チーフ、ケアマネにより調整や対応を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員退職の場合、一ヶ月前より新しい担当者を選任し、最小限の影響で住むよう配慮している。</p>	<p>ご家族への配慮</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>様々な年齢層と性別の職員により、偏りのないきめ細やかな対応が出来ると考えている。資格取得に向けての勤務の調節など自己実現の協力体制もできている。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>全体会議で勉強会を行っている。日頃は「お客様に対するサービス」という考え方で誰にでも理解しやすいように話している。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者、チーフ、ケアマネは、法人内外の定期的な研修の機会を設けている。</p>	<p>その他のスタッフへの比重をもう少し増やし、今後計画的に行って行きたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>この地域の居宅介護支援事業所連絡会は、非常に充実しており範囲も広く顔を合わせる機会も多く、医療機関や福祉施設など相互の協力関係にある。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室を新設し、休憩時間のとり方にも工夫している。また、勤務表は、できるだけ職員の希望に沿った休みが取れるようにしている。また、個々の意見が言いやすい環境づくりに努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の提案は採用できるよう話し合い、管理者は個々の努力や実績、勤務状況を法人での賞与の査定に反映できる体制にある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ずご本人との面談を行っており、心配事や求めていることなどを伺い対応している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ずご家族との面談を行っており、心配事や求めていることなどを伺って情報収集を行っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、または状況に応じてご自宅へ出向き情報収集を行い、管理者・チーフ・ケアマネ等で適切なニーズを探し、支援できるよう努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居後一ヶ月間は、桜の里での生活に慣れていただけるよう支援しつつ、その様子をご家族にも伝え、ご家族と互いに協力しながら適切な支援をしていくよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	桜の里では月に一度スタッフと入居者皆でレクリエーションを行い、いっしょに共有できる時間を作り支えあう関係作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族会を開催し、ご家族からの意見・要望等を集め、一緒に支援していける様にしている。また家族参加行事もあり、入居者・ご家族・スタッフ皆で楽しむ時間を支援できるようにしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会・外泊・外出等、ご家族と入居者が一緒に過ごせる時間を持つことが出来るよう勧めたり、行事へのご家族の参加を促している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前にご家族やご本人から馴染みの場所等の情報収集を行いそれをもとにドライブ等を行っている。またどなたでも面会していただけるようキーパーソンに協力していただいている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やおやつなどは皆でリビングで提供し、毎日のレクや家事も出来るだけ複数で行えるようにしており、孤立の防止に努めている。		自室で一人で過ごすことを好まれる方にも、無理なく楽しんで他者と交流が出来るような機会、きっかけを探していきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も気軽に相談していただけるような関係作りを日頃から心がけており、ご退居の際も再度お伝えしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中からご本人が求めていることを引き出すようにしている。疎通の困難な場合は、日頃の状態等から家族を交えて検討し、少しでもご本人の意向に近づけるよう努めている。		重度認知症の方にも出来ることの幅を広げたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時、またはご自宅へ出向き情報収集を行い、入居後も情報収集を継続している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各担当者を中心に個々の把握をしており、申し送りの充実により情報を共有し、片寄りのないケアを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各担当者が介護計画を作成し、サービス担当者会議でご本人やご家族の意向を伺い、また参加が難しいご家族には電話やファックスで伺いケアマネが統括している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月ごとにモニタリングを行い、変化が生じた場合には、担当者会議を行い変更している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書式を工夫しており、その方の発した言葉、表情、家族とのやり取りなども記入し、提案、改善の要望などその都度サービス担当者会議用の項目へ記入し活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	桜の里は、母体病院との密接な連携を特徴としており、月一回の主治医受診と緊急時の受診対応やリハビリ送迎も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ボランティアによる様々な協力や、シルバー人材センターの活用、民生委員の訪問など行っており、また消防署との防災訓練などを母体法人と共に行っている。</p>	
43	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>他施設の情報収集し、必要時に備えている。</p>	<p>現在のところ要望がなく、要望があれば出来る限りの対応を考えている</p>
44	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議やその他の会議などを通して何でも相談できる関係を作っており、今後も継続していく。</p>	
45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体病院があり、医療連携により定期・臨時受診及び納得いくまで相談できる体制にある。他病院とは連絡ノート等の活用により情報を共有している。</p>	
46	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>母体病院に専門医がいる。認知症に対して25年の実績があり、医療連携にも協力的に対応してくれる体制にある。</p>	
47	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ケアマネと非常勤でもう一名看護師が居る。また母体病院の看護師とも頻りに連絡を取り合える体制にある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院医療機関のワーカーやご家族とまめに連絡を取り、今後の支援について相談・検討を行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>管理者・チーフ・ケアマネは、ご家族や医療機関と対応策や今後の方針を何度も話し合っている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>まだターミナルを迎えていないが、今後の変化に備えた話はご家族との日常会話の中で時々マニュアルをもとに話している。また、母体病院からのアドバイスや協力もある。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特養への転所を希望されたご家族に、空きが出るまでの間老健を探し、スムーズに移動できた。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>男性入居者が多いこともあり、親しみやすさと丁寧な言葉遣いを心がけ、入浴も出来る限り同姓介助を行う配慮をしている。また、個人用カルテやケース記録等は鍵付きのスチールボックスで保管している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の目線に合わせた話をするようにし、場合によっては各居室でゆっくりと時間をとり、意向や要望を尊重できるように支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの希望、要望を伺い、そのペースに合わせて支援している。細かな事柄についても、その都度各入居者の了解を得た上で支援しており、拒否等あれば無理強いせず、ご本人の望むように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の服装を自分で選んで着て頂いたり、女性はマニキュア、男性は毎日髭剃りなどを行っている。理容店、美容室にも定期的に行くようにしており、本人希望の店への対応もしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	使い慣れた食器を使用し、職員も一緒に食事をする中で楽しい食事の時間になるよう努めている。また料理によっては入居者と一緒に調理や盛り付けも行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については、希望があれば本人の体調や疾患に応じて可能な範囲で提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握した上で、それぞれに適切なトイレ誘導、声掛けを行い、排泄失敗の軽減に努めている。そのため現在オムツの使用数はゼロである。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりに希望の入浴回数、曜日を伺い、ご家族やご本人の望む入浴の提供をしている。また入浴剤の使用や、入浴中の会話などに努め、楽しい入浴を心がけている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの状態や体調に合わせて、自発的に休んでいただいたり促したりしている。居室も常に室温調節、環境美化に努め、心地よく休息できる空間を作っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの情報をもとに、毎日のレクや個別での活動に努めている。希望があれば、外出や桜の里の食材の買い物、ドライブなど多様に対応している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブル防止のため金銭は、ご家族・ご本人了解のもと、グループホームで管理する体制をとっているが、希望時にはいつでも使える体制を整えている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の体調がよければ、ドライブや散歩などの声掛けをし実行している。入居者の要望があれば、その都度外出できるようにしている。それらの記録を個別活動表にて管理し、頻度の把握にも努め公平さを保つようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事に家族参加の外出機会を取り入れている。また土日は天候や体調がよければ、行く先を入居者に尋ねた上でドライブに行くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、随時電話が出来るよう対応している。また、毎日ファックスで手紙を欲しいというご家族の要望にも応えている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族以外の方については、事前連絡にてキーパーソン了解の上訪問、面会していただけるようにしている。面会時も居室だけでなくリビングや談話室など自由に使っていただけるよう開放しており、お茶出し以外は職員も必要以上に介入しないよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員が拘束についての知識や意味を勉強会等にて理解しており、桜の里では身体拘束は行っていない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、出入り口のブザー設置や職員の常時見守りに加え、入居者の所在、人数確認で対応し、開放的かつ安心して過ごせるようケアしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は戸締りを厳重にし、安全確認に努めている。また、一日を通して常時見守り並びに職員間の連携による入居者の所在・人数の把握に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に注意の必要な物品に関しては、スチールボックス内に保管し、チェック表で管理している。使用時は必ず職員付き添いのもと行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に努めているが、ヒヤリハット・事故報告書を多用し、些細なことでも記入する習慣をつけ、月一回のリスクマネージメント会議にて要因、防止策などを検討し、全体会議を通して再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	それぞれの事項のマニュアルがあり、常時閲覧できるようにしており、各職員が把握し備えている。また、毎月の全体会議でも勉強会を行い、各職員が対応できるよう学んでいる。今後も看護師との訓練を行う予定にしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に入居者との夜間想定避難訓練を行っている。また母体病院との訓練も行っている。		地域との交流を深め一層協力し合える関係を築く必要がある。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各職員が担当を持ち、面会時や電話等で密に話し合っている。またサービス担当者会議を開き、現在の状況等を伝え、相互で協力し、対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック時に特変があれば申し送りで情報共有し、各職員が情報の把握や対応ができるようにしている。常時各職員が、入居者一人ひとりの表情や雰囲気など観察し、変化を見逃さない対応を心がけている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを各入居者のファイルに添付し、現在の服薬状況の把握を行い、副作用のファイルもいつでも閲覧できるようにしている。処方薬変更時は、受診支援経過ファイルや申し送りノートに記入し、把握の徹底、また服薬時も飲み込みまで確認している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主治医、看護師の指示の元にコントロールしている。日常生活の中でも、体操・歩行訓練・水分摂取・腹部マッサージ等にて便秘予防に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力での口腔ケアが困難な方については、声掛けや介助を行っている。また義歯の方は、毎日就寝時にボリデント洗浄を行っている。定期、または必要時に歯科往診を依頼している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量チェックを行い、毎日の入居者一人ひとりの水分摂取量の把握に努めている。また、母体病院の栄養士による栄養指導で、それぞれに適切な栄養バランスや摂取方法を指導してもらっている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するファイルを作成し、いつでも閲覧できるようにしており、勉強会にて職員も予防、対応に努めている。入居者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩 台所のまな板、フキン等はハイター除菌している。食材も業者により安全な衛生管理のもと毎日運んできています。近所での購入も3日ごとにし、長期保存しないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花を植え、ベンチを置き、家庭的な雰囲気になるよう努めている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季を感じられるものを飾るようにしている。毎月入居者が作ったカレンダーを飾っている。また、談話スペースは暖かく柔らかな照明にし、窓が多いためレースのカーテンなどで日差しの調節を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、談話室にソファ、テレビなどを設置し常に開放している。また、将棋、新聞、編み物なども準備しており、好きな時に使ってもらっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や私物など、入居者の慣れ親しんだものを自由に持ち込んでいただいている。また模様替えなどもご本人と行き、自分の望む部屋作りを支援している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的にエアコンフィルターの清掃を行っている。また温度調節も各入居者にあわせ過ごしやすいようエアコンの調整を行っている。定期的に窓を開け換気を行うとともに、常時換気扇を稼働させ、換気に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等には手すりを設置しており、戸は引き戸にしている。視力障害の方にはテープで目印を付ける等して自立支援に努めている。流し、洗面台、テーブルの高さなど通常より低めの設定にしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングに日めくりカレンダーを設置し、毎日日付確認を行っている。また座席や靴箱などに、ご本人、ご家族了解のもと名札を貼り、入居者自信が分かるように配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇を作り、花を育てたり草取りを行っている。また、洗濯物を干したり、設置したベンチで皆でおやつや茶話会なども行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)